

京都動物愛護センター運営委員会 議事録

1 開催日時

令和8年2月4日（水） 午後2時～午後3時30分

2 開催場所

京都動物愛護センター（京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地）

3 出席者（五十音順 敬称略）

<委員長>

西野 佳以（京都産業大学生命科学部准教授）

<委員>

上村 享（近畿ケネル協同組合専務理事）

林 学（精華町健康福祉環境部環境推進課課長）

前川 勝六（京都市南区上鳥羽自治連合会会長）

松岡 幸子（NPO法人アンビシャス理事長）

村田 裕史（公益社団法人京都市獣医師会会長）

森 尚志（一般財団法人J-HANBS 関西支部長）

吉田 正美（京都府動物愛護推進計画検討委員会委員）

若松 久雄（公益社団法人京都府獣医師会会長理事）

<事務局>

【京都府】

小林 哲（文化生活部生活衛生課長）

大石 剛史（京都府動物愛護センター所長）

【京都市】

南 秀明（保健福祉局医療衛生推進室医療衛生担当部長）

大原 隆（保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課生活衛生担当課長）

伊東 大輔（京都市動物愛護センター所長）

4 次第

(1)開会

(2)あいさつ

(3)委員紹介

(4)内容

報告事項

- ・京都動物愛護センター実績報告

協議事項

- ・令和8年度年間イベント事業計画（案）
- ・令和8年度ボランティア事業計画（案）
- ・ドッグラン利用区分の再設定について

(5)閉会

5 会議録

(1) 京都動物愛護センター実績報告について（資料1）

委員 保育園や小学校等への出前講座は非常に良い取組である。今後も、センター内での開催以外に、地域を訪問して活動を進めていってほしい。

また、ボランティアの活動状況について、多くの方が参加いただいているようだが、何か対価はあるのか？何らかの形で謝意を示すほうがよいのではないか。

事務局 出前講座については、引き続き取組を進めてまいりたい。

ボランティアの方への対価については、現状、特にお渡ししていない。このことについては、センター設立当初から様々な御意見を賜り、検討してきた。結論として、センターで活躍いただくボランティアの方へは、金銭等の対価をお支払いせず、純粋に動物愛護事業へ取組んでいただける方を募ることとしており、今でも毎年100名近く御応募いただいている。今後も、皆さまの想いを大切にしつつ、御意見として受け止めさせていただく。

委員 猫の一時預かりボランティア事業について、子猫だけでなく成猫も対象に加えたことはとても良いと思う。もし預かりを希望する方がいるのであれば、高齢の猫も対象とされてはどうか。また、市獣医師会としても子猫の一時預かり事業に引き続き協力をしていきたいと考えている。事業について、より広く浸透していくよう、センターSNSを活用した広報等も検討いただきたい。

事務局 猫の収容数が減少したため、人馴れしていない成猫や高齢の猫も譲渡に取り組めるようになった。一時預かり事業を含め、今後も譲渡の推進に取り組んでいく。子猫の一時預かり事業に関する広報支援についても、引き続き検討していきたい。

(2) 令和8年度年間イベント計画（案）について（資料2）

委員 動物愛護フェスティバルの開催時期について、9月ではなく、暑さのピークが過ぎた10月～11月頃に変更できないか？また、開催場所も、市内中心部ではなく、もっと車での来場がしやすく、ペットと同伴しやすいような場所で開催できないか検討いただきたい。

事務局 開催時期や場所について、より良い形となるよう、引き続き検討を進めていく。

(3) 令和8年度ボランティア事業計画（案）について（資料3）

委員 飼い方講座について、オンライン開催は遠方の方も参加しやすく良いと思うが、実際にペットを連れて参加できるイベントがあってもよいと思う。しつけ方教室や相談会等をセンターで毎月開催することは難しいか？

事務局 以前、犬の訓練士の方から、成犬のしつけ方教室は、悩み事や犬の癖がそれぞれ異なるため、一律に開催することは難しいと助言を受けたことがある。しかしながら、センターの役割として、犬のしつけに関する発信や啓発は行う必要があると考えているため、前向きに検討していく。

委員 子供たちを対象とした啓発イベント等について、地元の幼稚園や保育園等の施設へもっと積極的にアピールし、地元で動物愛護センターがあって良かった、と思ってもらえるような施設になってほしい。

事務局 各施設からの要望に応じて、引き続き柔軟に対応していく。

委員 センターでのイベント開催にあたり、やはり多くの集客を募るようなイベントの実施は、騒音対策など地域への配慮を考えると難しいのか。

事務局 周辺に配慮しつつ、引き続き、今の施設でできることに取り組んでいく。

委員 去年は亀岡市でも、ペットとの共生をテーマとした大型イベントが開催された。

京都府は広いと、センターへ来所することが難しい府民の方も多くいると思う。京都市以外の市町村でも、こうしたイベントが開催できるよう、協力してほしい。ちなみに、センターボランティアの方で、京都市以外に在住の方はどの程度おられるのか。

- 事務局 市外にお住まいのボランティアの方は約1割となる。京都府下の小学校や高校から、センターへの見学希望や問合せ等はあるため、引き続き発信を続けていきたい。
- 委員 パネル展示によるセンターの周知協力について、来年度は精華町で実施予定だが、ただパネルを設置するだけではなく、職員やボランティアの方が立ち合い、展示内容について説明するなど、より積極的に周知できるよう工夫してもらえないか。
- 事務局 いただいた御意見を踏まえ、実施方法について検討していく。

(4) ドッグランの利用区分の再設定について（資料4）

- 委員 趣旨としては賛同するが、両方のエリアを選択できる犬種を限定することについては、利用者から新たに不満がでる可能性があるのではないかと。
- 委員 犬種を限定するのではなく、あくまで例示として示されてはどうか。
- 委員 犬同士の相性については、犬種や体格もあるが、その犬の性質や環境等も大きいと思われる。
- 委員 利用者に対する注意喚起を徹底し、事故等が起こらないよう啓発していくことが重要ではないか。
- 事務局 いただいた御意見を集約すると、現状の運営方針と大きく変わらないと思われる。もう一度検討し直し、変更する場合は改めて提案させていただく。

(5) その他協議事項について

- 事務局 今回、資料としてはお配りしていないが、ペットの災害対策について、避難所内でペットと一緒に過ごす同室避難の取組を、どのように進めていくことが良いか、御意見を伺いたい。
- 委員 同室避難を行うには、飼い主によるペットのしつけが不可欠である。同室避難を希望する飼い主から相談があった場合は、避難所運営者や施設管理者の理解を得るためには、飼い主側が責任をもって自身のペットのしつけや管理を行わなければならないことを伝え、まずは地元の避難所がどのように運営されているのか、防災訓練等に参加するなどして、知るところから始めてみては、と伝えている。
- 委員 以前、災害時に地元の避難所が開設された時、運営マニュアル上ではペット同伴者の想定をしていなかったものの、実際にはペットを連れてこられた避難者がいた。その際は、施設側と調整し、急遽、ペット同伴者に一部屋を開放した。防災訓練や避難所運営マニュアルにも、ペットとの避難について盛り込むよう、行政からも支援を行ってほしい。また、市では防災士の資格取得を支援していると聞けるが、実際に地域にどのくらい防災士がいるのかは知られていない。防災士に関する情報発信について、地元とも密に連携をとってほしい。
- 委員 精華町議会でも、ペットの同室避難について議論がなされたが、施設側でペットのアレルギーに関する懸念があり、強い反対があったと聞く。同室避難の実施には、様々な懸念点があると思われるため、慎重に検討を進めてほしい。
- 事務局 いただいた御意見を踏まえ、取組の進め方について検討していく。